

令和6年度学校評価（自己評価）

秋田県立本荘高等学校全日制課程

	1	2	3
項目	校務一般について ・ P T A、同窓会、地域連携等	学習指導について ・ 授業研究等	生徒指導について ・ 基本的生活習慣等
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的な視野で各分掌間の連絡調整を図る。 ・ P T Aや諸機関との連携を密にし教育環境の整備充実と活性化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績処理方法と処理日程を適切に提示することで、通知票発送後にミスが発覚する状況をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規律ある生活態度の確立[学習環境の美化] ・ 校内生活時間の順守[ベル着ベル授業] ・ ネット関係モラルの啓発[スマホ、ネット使用マナー]
目標達成への方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務運営活性化促進のため、各分掌間で継続的に連絡をとりあう。 ・ 危機管理マニュアルの追加項目の確認・見直しを継続する。 ・ P T Aや各分掌と連携し、職員も協力して広報活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ入力から日々入力への移行によって業務を軽減し、処理時間を短縮する。 ・ 内規やマニュアルを確認し、教科単位で処理を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教務部と合同で学びの姿勢に対する意識を喚起 ・ 生活委員会によるポスター製作 ・ スマホ安全教室の開催(1年生) ・ 生徒指導通信での呼びかけ
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班長会議の継続と業務負担軽減に向けた会議時間短縮や方法の検討。 ・ 熊対策を含めた新たな危機管理マニュアルの作成。 ・ P T A会報の充実や各分掌と連携した部活動や進路実績の P R活動の推進。 ・ コロナ禍後の各種儀式の在り方の弾力的な運用。 ・ 働き方改革を意識した諸会議の運用方法の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々入力のためのマニュアルやルールを整備し、学年の担当者が細かなチェックや声かけを行った。 ・ シラバス通りに処理をすること、修得の判断を教科として行うこと等について、教科主任を通して周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1学年の生徒を対象として「スマホ安全教室」を実施した。映像教材やペアワークを取り入れて、当事者意識を持たせるように工夫した。 ・ 日頃の指導やポスター、あいさつ運動などで、規律ある生活態度や学習環境の美化を呼びかけた。 ・ 生徒指導通信で全校生徒にネット使用について注意喚起した。
達成状況	各種行事の在り方や儀式の在り方について前例に全てはとられず、場面に応じて職員や保護者等の意見を踏まえてメリハリをつけた。	日々入力により出欠処理にかかる負担は軽減されたが、第3回考査の段階で第1回と第2回で不適切な成績処理があったことが判明した。	指導や呼びかけに素直に応じ、自ら考えようとする生徒が多いが、なお継続的な指導と支援が必要である。
自己評価	概ね計画してきた事業は達成できている。今後は働き方改革を意識して職場環境の改善を図るために、より一層会議等の在り方や方法を検討する必要がある。また、P T Aや諸関係機関との連携を深めることは生徒に良い形で還元されるので、より一層 P T A 活動等充実させたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々入力の移行により、出欠の処理は業務軽減と正確さに結びついた。 ・ 評点算出の仕組みが理解不足の教員が数名いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大多数の生徒達に、規律ある生活態度で学校生活を送ろうとする姿勢が見られる。 ・ ネットの不適切利用が発生しておらず、悪質なスマホ使用ルール違反も起きていない。
	B	B	A

	4	5	6
項目	進路指導について ・進路行事、進路情報等	特別活動について ・学校行事や部活動等	情報管理について ・授業や校務での ICT 活用等
具体的な目標	・自主的な家庭学習習慣定着。 ・面談や進路行事を通じた生徒個々の適性把握支援。 ・学年、教科、部活動の連携と情報交換による学力の向上。 ・入試制度や新学習指導要領の分析と対策・情報の提供。	・さらなる、学習と部活動等の両立、他人を思いやる豊かな人間性を育む。 ・生徒自らが率先して各活動・学校行事に参加するよう促す。	・百問繚乱の導入による採点業務の軽減 ・職員、生徒ともに、授業に ICT を積極的に取り入れ活用しながらリテラシーを身に付ける。
目標達成の方策	・長期休業中講座の精選・習熟度別講座の実施。 ・学力分析会や校内外研修会の企画・運営・斡旋・奨励。 ・HPやClassiを用いた進路通信等の定期的な発信。	・部活動について、目標は各部顧問に一任するが、生徒が達成感を得られるものにする。 ・運動会や玲瓏祭は生徒会を中心に企画・運営を行い、生徒自ら率先して参加できるようにする。	・百問繚乱の利用環境を整える。 ・職員研修を行い、さまざまなサービスの使用方法や活用例を知ること、授業に取り入れやすくする。
具体的な取組状況	・長期休業中の講座を習熟度別に選択できるようにした。 ・4月の進路検証会を新設し、生徒の成績推移や進路状況等の共有を図った。 ・進学指導に関わる校内研修会を、外部講師を招聘して3回実施した。 ・予備校主催の教科指導講座等への参加を奨励した。 ・進路情報を定期的に発信。	・各部活動では、いろいろな取組をしている。 ・三人行事（運動会、玲瓏祭、クラス対抗）と芸術鑑賞教室やポート教室は、生徒会や部活動を中心に行動している。	・前期に5回、小規模ながら職員研修を実施した（年度内にFigJamとCanvaを扱う研修をもう数回実施する予定。） ・公開授業の際にICTを意図的に取り入れ、活用方法の共有を図った。
達成状況	夏期・冬期講座の運営は概ね良好である。進路検証会を通じて、本校生徒の現状や課題を全職員で共有した。校内研修会の参加者数は予想以上であり、予備校研修も8名の教職員が参加し、研修内容を他教職員に還元することができた。	人数が少ない部活動でも、他校との連携や県外での練習試合を増やすなどの工夫によりレベルアップに努めている。玲瓏祭は企画を増やすなどで昨年より活気あるものとなり、一歩前進した。生徒会中心で生徒自ら考え行動できるものとなっている。	百問繚乱は多くの職員が活用していた。研修については、参加者は新たな知識・技術やサービスの内容を知ること、授業等への活用などに結びつけることができたが、参加人数は毎回非常に少なく、今後は研修部等との連携が必要である。
自己評価	東北大学AOⅡ入試で5名が合格し、国際教養大学グローバルセミナー入試で3名が合格した。いずれも昨年度を上回る結果であり、今年度の方策による一定の成果と考える。	各部活動の成績が向上していることから、昨年以上に生徒が達成感を得られている。生徒会を中心に、生徒の意欲・意識が高く、生徒の主体性を尊重して各種行事を実施することができた。主体的に考え、行動できる力が発揮された。	研修、公開授業ともに、業務の合間をぬった日程での開催であったため、参加者は毎回数名で、職員全体でのリテラシー向上には結び付いていない。BYOD移行後「買ったのに使っていない」とならないよう、今後も積極的な取組が必要である。
	A	A	B

(評価基準) A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。

B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

令和6年度学校関係者評価委員による評価

秋田県立本荘高等学校全日制課程

	1	2	3
項目	校務一般について ・PTA、同窓会、地域連携等	学習指導について ・授業研究等	生徒指導について ・基本的生活習慣等
学校関係者評価委員の意見・感想・提言等	<p>○保護者の進学への意識向上を積極的にはかってほしい。</p> <p>○校務全般にわたりスムーズに運営されている。校舎全体に照度不足と教室床材の摩耗が目立った。</p> <p>○コロナ禍以来、行事・儀式等のあり方が大きく変わり、戻らないものも多く残念ですが、先生方・保護者にお任せするしかないですね。</p> <p>○PTAや諸関係機関との連携が深まっているようで、生徒さんたちも安心して学校生活を送れることと思います。</p> <p>○かなり長期間、外部評価に携わって来たが、最近になって、不断の改善活動が見えて来た気がする。情報伝達手段の話かも知れないが、「良好」と考える。</p>	<p>○学習指導要領の趣旨も大切ですが、生徒の実情を見据えて、適切に対応して欲しい。</p> <p>○授業参観し、各先生方がそれぞれのスタイルで熱心に指導されていた。</p> <p>○授業参観させていただき、魅力的な授業が多かったです。生徒の学習意欲を感じました。</p> <p>○各教科における授業研究がなされていると感じました。</p> <p>○授業研究などのFD活動が低調と理解した。原因の分析と対策が必要と考える。</p>	<p>○あいさつの大切さ。周囲を見渡せることを指導して欲しい。 スマホ見ながら歩く生徒が多い。</p> <p>○規律ある生活態度の確立や校内でのスマホ対策が上手に行われている。家庭でのスクリーンタイム対応として、全生徒に22時までの利用制限を提案したい。</p> <p>○整容面もきちんとされています。本高の女子生徒の（伝統の）ロングヘアは、自由の象徴なので、大切にしたいと思っています。</p> <p>○日頃の指導により、規律ある生活習慣が身につけられていると思います。スマホの使用についても注意の喚起が行き届いていると感じました。</p> <p>○分掌シートの内容、アンケート結果から、「良好」と評価できる。伝統的な指導継続の賜物と考える。</p>
評価	A	A	A

	4	5	6
項目	進路指導について ・進路行事、進路情報等	特別活動について ・学校行事や部活動等	情報管理について ・授業や校務での ICT 活用等
学校関係者評価委員の意見・感想・提言等	<p>○文系・理系の進路選択をしっかりと1年生からできるようにして欲しい。</p> <p>○学力向上に努め3年間で目標達成出来ることを評価する。選択試験対策に全職員が分担してあたった点もよかった。</p> <p>○努力の成果があり、良い結果が出たことは、大変喜ばしいことです。</p> <p>○全職員で研修し、生徒さんの現状等を把握なさり、そして結果に結びつけていると感じました。</p> <p>○敬服すべき実績であり、自己評価は妥当と考える。</p>	<p>○メリハリのある活動を！生徒が考えて自分の力で！</p> <p>○限られた時間内によく活動し、生徒の成長に良き影響を与えている。</p> <p>○部員減少で大変そうですが、(少子化の為大変ですが)工夫されているようです。生徒との関りもご苦労と思います。</p> <p>○日頃のご指導により、各部活動の成績向上、また意欲、意識の向上が多く場面で見られていますと感じました。</p> <p>○分掌シートの記述をアンケート結果から確認した。良好と見做せ、自己評価は適切である。</p>	<p>○基礎力を定着させるために積極的に活用して下さい。</p> <p>○ICTの活用向上は順調に推移している。BYODの開始後の教科書選定につき研究を要する。</p> <p>○学校からの通信や連絡をWEB配信にまで発展しないことを祈りますが、近いうちにならざるでしょう。人間形成を忘れないで欲しいと思っています。</p> <p>○新たな知識、技術、サービスを授業等への活用に結びつけるまでが大変そうに感じました。</p> <p>○生成AIなどへのリテラシーを教育すべき時代である。危機感を持って取り組むべき高大連携事業かもしれない。</p>
評価	A	A	B

(評価基準) A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。

B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

◎その他のご意見等

<p>○授業は基礎力の徹底、受験は業者の積極的活用。先生方のスキルの差がありすぎると思います。</p> <p>○本荘高校には優秀な生徒を育てる役割だけでなくプラスαを期待します。キャリア教育の土台となる「高い志」や「生涯学び続ける」を身につけさせ、卒業後も伸びしろのある人材として輩出して欲しいと願います。</p> <p>○資料だけでは、正直評価させていただくのは非常に難しいことです。なので、日頃の先生方のご努力を思えば、私としてはすべて「A」評価となりまして、以上のようにさせていただきました。</p> <p>○PDCAに係る分掌評価シートが刷新され、分かり易くなった。大きな前進であり、外部評価が容易になったことはありがたい。KPIが示されるともっと良い。働き方改革に係る業務のDX化の深化に多少の心配があるので、何らかの対策を要するのではないかと。</p>
--